

日本では 梅雨の鬱陶しい中、サッカーW杯南アフリカ大会が決勝リーグに入り、大きな歴史がいくつも刻まれて終盤を迎えます。魂を据えて試合に臨む選手、ディオとレオの関係はじめ各国の形は十色、力と力のぶつかり合い。眠い目を擦っても見逃せません。

自己の中で、完結させたくても、相手によって 許されない“事”、半年になりました。それでも早急に自分の中で解決・完結させ、次に臨みたいと考えております。

相手に対応する姿勢・能力が無く“臭いものには蓋”的に闇に葬ろうとする事、彼らが生きてきた過程で形成された訂正出来ない・間違ったプライド ここからくる“無言(ダンマリ)”“対応無し”という行為、事が起こってから周囲が気付き停止させるまでの時間、厄介なものです。 《平成 22 年 6 月 康寿診報 第 150 号 送付文より抜粋》

相手にとっては、何とも思わず当たり前に行っている行為であろうか？

これが、自己にとって 心身共にズタズタになっている“事”、やはり 相手に対し直接話し合う・交渉の場を持つしかない、これに応じなければ文面で伝える、必要に迫られ何度繰り返してもこれに応じない時は 如何するか？ 出来る事はすべて遣り尽くした上で、思案している。ここまで相手が鈍感な事に 愕き 嘆きながら…、

今現在の周囲の目を気にする事では無い、自分の行動が3年5年10年後 先を見詰めて 間違いが無い様に 今行動する事である。

時間の無駄・浪費では有るが、法の下に相手を問い質す。

自分の腹の中に納め、相手に3度と同じような行為はさせぬよう十分に牽制した上で整理整頓した上で、終わりにする。

私の“魂の叫び”に対して無言(ダンマリ)で抹殺しようとの考えが間違えである。これに対して、 の選択肢と考えているが…、間違っ**て**暴徒化していると見る周囲の目。

「『世間一般からみると他人の揉め事は“蜜の味”』を 好奇の目で 笑いながら ゲーム感覚で楽しんでいるだけよ…」との 友のアドバイスに感謝。

しかし、50歳に成るまであと半年、3年後のスパークの為に、今の自分・自己から、正確に可能な限りの力で物申してみる。事の詳細は 己でマネジメントする。

私自身が下記の の信条を私個人が貫こうとする。守りに回ろうとする自己を打破する。

物事の判断は「正しい」か「間違い」かである。「『質』を考え、毅然とした言動、後退せぬ責任』、49歳の自分に また一年 もう一年 課す言葉」です。《平成 22 年 年頭所感》

「物言わねば腹膨るおもい」見たこと、聞いたこと、感じたこと、みんなでいろいろな意見を出し合い、あるときは反駁し、あるときは共感し、会員の心のふれあい、心のゆきかいのなかに、新しきものを求めて・・・ 《平成 5 年 “心のひろば” 創刊時の に掲載された言葉》

「自分に間違いがあれば確として詫言 即訂正する。」《平成 21 年 康寿診報 第 136 号より抜粋》

今の現実の中で、一生懸命生きています。己が魂を据えて事に当たる必然性を感じます。皆さんの力で私にパワーを下さい。宜しくお願いします。色々と“事”が起こる事、享受して活きます。康寿診報 151,152 号 送らせて頂きます。

平成 22 年 7 月 8 日 加藤寿夫

ホームページが新しくなりました。<http://www.katoiin.jp> ぜひご覧ください。

《平成 22 年 7 月 康寿診報 第 152 号 送付文》